

シンポジウム：ヨーロッパにおける移民教育政策と移民第二世代の学校適応

**Education Policies for Immigrants and
Social Adaptations of Second Generation Migrants in Europe**

山本 須美子 (東洋大学)
Yamamoto Sumiko (Toyo University)

趣旨説明

Introduction and Overview

今年1月フランス・パリでの預言者ムハンマドの風刺画を掲載した出版社が襲撃されたテロ事件に象徴されるように、第二次世界大戦後ヨーロッパに流入した移民第二世代の社会統合の遅れは社会問題化し、その根底には、主流社会の学校からの中退や低学力といった学校不適応に関わる問題があることが指摘されている。他方で、特に中国系や東南アジア系、インド系第二世代は多数派の子どもよりも高い学業成績を上げ、またトルコ系やモロッコ系等問題とされているイスラム系第二世代の中にも学校に適応し、社会的上昇を遂げ都市のミドルクラスに参入する者も現れている。

ヨーロッパ諸国における移民第二世代の学校適応に関する状況は、OECDによるPISA調査、EFFNATISプロジェクト、TIESプロジェクトなどの大規模調査を通して明らかにされてきた。しかし、他方で、EU加盟国であっても、「移民」に関わる統計上のカテゴリー化は一様ではなく、各国ごとに異なってカテゴリー化された統計が作成され、第二世代に関わるデータも限定的であることが多い。また、移民政策や移民教育政策も各国で異なっている。

本シンポジウムでは、フランス、イギリスとベルギーの3国を取り上げて、各国の統計から移民第二世代の学校適応に関わる実態と、移民教育政策の現状を比較検討する。さらに、フランスのポルトガル系政治家とロンドンのイスラム女性へのインタビュー調査に基づいて、当事者のアイデンティティ形成過程から、学校適応の要因を探ることを目的とする。それによって、従来の大規模調査では抜け落ちていた点を補うだけでなく、移民第二世代の学校適応をめぐる新たな局面を明らかにしたい。

なお、本発表は、科研費共同研究「EUにおける移民第二世代の学校適応に関する教育人類学的研究」（基盤B：海外学術：H24~27、研究代表者：山本須美子）の最終報告の一部である。